

東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプの誘致活動が本格化

スポーツの普及や交流などを通じて、「スポーツ王国しづおか」を目指す静岡県は、アスリートの育成やスポーツ人口の増大に向けた取り組みを積極的に行っている。2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて本格的に動き出した本県の取り組みを紹介する。

教育的、文化的、社会的な意義のある事前キャンプ

静岡県は2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けて、各國の代表チームが行う事前キャンプを県内に誘致する取り組みを本格化させている。

事前キャンプは大会直前に行われる最終調整の場だ。トップアスリートの技を体感できる機会は限られるにせよ、代表チームを見近に見ることで、地域の人たち、とりわけ子どもたちにスポーツに関する夢や希望を抱かせる



リオオリンピック期間中にリオ市内で、イタリアオリンピック委員会に事前キャンプの県内実施を提案。

2016年のインターハイやジュニアユースカップ優勝など、女子レスリング65kg級のカデット世代(16~17歳)において、無敵の強さを見せる森川美和さんは2020年の東京オリンピックで金メダルを目指している。

レスリングを始めたのは小学1年生の時。いとこが通う地元沼津のレスリングクラブを見学したのがきっかけだ。「試しにやってみたらすごく楽しくて、すぐに夢中になりました」と森川さん。その1ヵ月後に出場した全国大会では準優勝を果たし、早くから勝つ歓びも味わったという。中学時代は学年違いによる体格差で伸び悩む時期もあったが、65kg級となった2015年以降は表彰台の常連選手として活躍している。

森川選手の信条は重量級であることながらスピードがあること。得意技は片足タックルだ。格闘技に不可欠な強いメンタル、気持ちの切り替えが早い明るい性格も大きな武器だ。「でも、それだけでは世界で勝てません。もっと筋力アップして、体力や技のバリエーションも増やす必要があります」と森川選手は課題をあげる。

現在は親元の沼津を離れ、女子レスリングの強豪校・安部学院高等学校(東京)に通う森川選手。厳しい練習にも楽しく取り組む姿勢はチームのムードメーカーでもある。好きな言葉は「想像以上の自分」。自身を信じて金メダルへのタックルを狙う。



大切な仲間とともに世界を目指す。

もりかわみわ
森川美和さん
女子レスリング選手

スピードと強いメンタルで、金メダルへタックル。

リオオリンピック協会・フェンシング協会へ事前キャンプの県内実施を呼びかけた。リオ大会が終わつたことで、日本各地で誘致活動が活発化しているが、本県の動き出しは他県に先行しており、イタリアなどから、具体的なキャンプ地視察の打診も得ている。

オリンピック・パラリンピックにつながる各国競技団体の強

リーアクションや、モンゴルのレスリングチーム、伊豆の国市とモンゴルの柔道チーム、焼津市とモンゴルの陸上競技チーム(パラリンピック)の3競技。来年の1月には藤枝市とイタリアの柔道チームも締結予定だ。事前キャンプの誘致に手を挙げている市町は20、候補施設は48にのぼる。本県は1つでも多くの実現に向けて市町をパックアップしていく。

本県はリオオリンピックの視察に際し、イタリアオリンピック委員会やブラジルのアーチェリーアカデミーが静岡市で強化キャンプを実施している。これらの実績が評価され事前キャンプが実現する可能性も大きい。



昨年12月、静岡市で行われた台湾バドミントン代表チームの強化キャンプ。

事前キャンプの誘致で期待される国と地域のスポーツ交流。誘致が実現し、各自治体がスポーツイベントのノウハウを身に付けることができれば、県内各地でスポーツ交流が加速し、東京オリンピック・パラリンピック後も「スポーツ王国しづおか」として広く認知されるだろう。

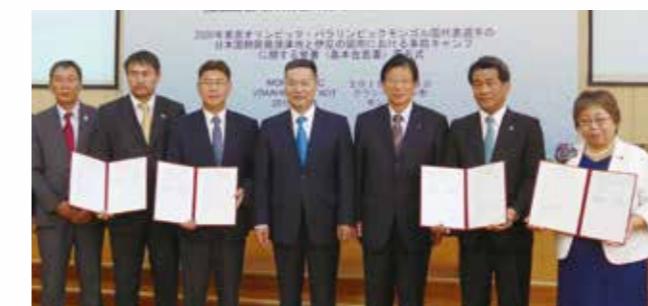
ツに関する夢や希望を抱かせる教育的な意義は大きい。また多くのメディアに注目されることで、地域の存在や魅力を世界へ発信できるメリットもある。多數の人たちが一定期間地域に滞在すれば、経済的な効果も生まれるだろう。ただし、意義として最も重要なのは、国と地域による継続的な交流だ。例えば、2015年に焼津市(レスリング)・伊豆の国市(柔道)とモンゴルの間で交わされた事前キャンプに関する覚書は、これまでの本県とモンゴルと

の積極的な地域外交によるものだ。つまり、事前キャンプが県内で実施されることは、交流の成果であるとともに、キャンプ後の交流をさらに加速させる契機にもなり得る。こうした考えに基づいて、本県は市町と連携し、事前キャンプの誘致活動を積極的に推進している。

スポーツイベントのノウハウを身に付ける機会に

現在、事前キャンプの覚書を締結しているのは、焼津市とモロッコのレスリングチーム、伊豆の国市とモンゴルの柔道チーム、焼津市とモンゴルの陸上競技チーム(パラリンピック)の3競技。来年の1月には藤枝市とイタリアの柔道チームも締結予定だ。事前キャンプの誘致に手を挙げている市町は20、候補施設は48にのぼる。本県は1つでも多くの実現に向けて市町をパックアップしていく。

本県はリオオリンピックの視察に際し、イタリアオリンピック委員会やブラジルのアーチェリーアカデミーが静岡市で強化キャンプを実施している。これらの実績が評価され事前キャンプが実現する可能性も大きい。



昨年8月、モンゴルで行われた焼津市長・伊豆の国市長による、東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプに関する覚書の署名式。

